

葉山町ごみ処理基本計画（案）に対する意見

住所：×××××××××

氏名：×××××××××

電話：×××××××××

意 見

今回の葉山町のごみ処理基本計画（案）は環廃対発第080619001号にマッチした仕組みになっていない、税金はなんでしょう、町民に種々のサービスを提供し、上記指針の生活環境の保全が出来なければなりません。今は逆に町民に対し更にあれをやれ・これをやれと押し付けて、更に高齢者や障害者等に対し最悪の計画となりつつあります。

もう一度原点に立ち返り再検討すべき計画と考えます。

1、第1期の数値目標

- (1) 基準年が平成18年はおかしい、森町長がごみ処理方法を大転換されたのですから平成20年を基準にしないと意味がない。
- (2) 平成20年を基準にしてごみ量を半減
- (3) ごみ処理費も当然半減で4億7千万円以下
町民の出すごみ量を半減しろと言って、行政側の処理費を△28%はおかしい。
先ず行政が範を示すべきです。

2、第1期目標に向けた主な施策

- (1) 現在の15分別でも出来ないお年寄りが増えている中で、22分別は不適切、益々ごみ出しの分別品質が悪くなる。お年寄り・障害者に厳しい計画、むしろ分別を資源ごみ・燃やすごみ・燃やさないごみの3分別程度にする。
- (2) 3分別でリサイクルセンターを充実して資源化率を今の2倍・3倍と上げてゆく。資源ごみの品質が上がり、高価で売却できる。
- (3) 高齢者のふれあい収集とありますが収集もさることながら分別に苦勞しているのであり、戸別分別をしていただければ、分別数が増えても良いでしょう。
- (4) 分別数を増やすことは行政が楽をして、町民に押し付ける計画。
- (5) 雑草は庭の大きさにより変わり、一律の袋の大きさはおかしい。4月からどんどん増えます、雑草の資源化は実施しないのですか。これらの配慮が必要です。

3、新しい処理の体系

- (1) 新しい処理の体系となっていますが、今のまま老朽化した焼却炉で不完全な焼却を続け、有毒ガスを町民に吸わせないで、処理費を増やさないで、焼却処理委託

(熱回収)に替えて始めて新しい処理体系になる。

- (2) この処理体系は青森県・茨城県・千葉県・群馬県・三重県と日本列島の半分を駆け巡らせる、処理費の大きなムダを生む計画であり、即時中止すべき処理方法です。
 - (3) ごみの長距離運搬による大きなムダと CO₂を増加させる処理方法は中止すべきです。世界・日本の環境行政においても CO₂の発生を抑制しなければなりません。その為にも運搬距離は遠くて10km以下に押さえないければなりません。理想は4km以下ではないでしょうか。
 - (4) 資源化業者に直接引き取ってもらうのは一見もっともらしく見えますが、資源ごみとして買ってもらう為には品質が大切であり、これでは無料か金を払って回収してもらう事になる。
 - (5) 家庭系ごみが22分別で事業系ごみが3分別はおかしい、両方とも3分別にすべきと考えます。分別を少なくし回収して、中間処理をきちんとして、資源化・リサイクル率を上げなければ、真の減量化・資源化になりません。
- 町民にあれもやれこれもやれという、江戸時代の悪代官のそのもののようです。

4、町民側から見たあるべきごみ処理の姿

- (1) ごみは毎日家の前に出す。(戸別収集)
- (2) 町は黙って収集する。
- (3) 分別しても燃やすごみ・埋めるごみ・資源ごみの3分別にする。
- (4) 町が中間処理でごみを資源に変えて利益を出す。
- (5) 資源ごみは町が資源化業者ごとに分別、売却する。
- (6) ごみの長距離運搬はしない。10km以下
- (7) 燃やすごみは完全燃焼させて、残渣は資源化する。
- (8) ごみ処理費総額4億3千万円以下にする。

以上が町民の為になるごみ処理の仕組みです。現在の仕組みは最悪で、町民にだけあれをしろ・これをしろと町民に負担を掛けるだけの仕組みになっている。高い住民税は何の為に払っているのでしょうか、これでは2重3重の税金を払った事と同じになっています。

以上の他に町行政の体質として、下記の問題点があります。

従来のパブリックコメントはただ意見を聞くだけで真摯に検討し、町民からの意見を取り入れる事がされていない。形式的なパブリックコメントになっている。